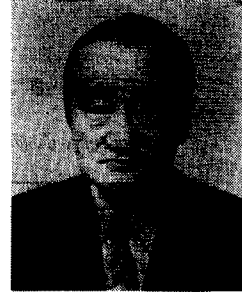


これからの学会

日本オペレーションズ・リサーチ学会 会長 横山 勝義



新年おめでとうございます。もっとも私ごとき老齡者にとっては、新年のめでたさは年齢とともに目減りしてゆくもので、人生の節目々々に、自分自身をふるい立たせるよう仕向けることが、一層大切となるようです。年頭に当って、われわれも若い方々に負けず、いろいろと希望を新たにし今年こそ長年の宿志をいくつか達成したいと念願しております。こういった意味から、いまの私にとってORが大変役に立っていることを感謝しながら新春を寿いでおる次第です。

さてこの新年号は「これからのOR」の特集号と聞きおよびましたが、年頭に当っての当を得た企画だと同感しております。

「これから」を議論するには「いままで」を調べて「いま」を改めて認識し、周辺の状態の変化を先廻りして分析し、本体の「これから」を予測するのが常套の手段であります。そこで当学会の「いままで」をふり返ってみますと、設立以来今日までの26年間の一番大きなイベントといえば、昭和50年7月に東京・京都で開催されたIFORS第7回合同国際会議であるといえましょう。この会議のために、当時の小林会長の強力なお力ぞえで学会が法人化され、この大会を契機に、会員の諸兄の力が集中されて、学会存立の基礎が確立されたと判断して間違いのないことと思われま

す。一方、いままでの学会の運営は、会員の方々の犠牲的な奉仕によって支えられ、不偏不党、まったく公正な道筋をたどってきたことが特にめだつた特長であります。このために、いまの学会は、世間にありがちな派閥抗争のまったくない、本

に自由に言いたいことを言い合える学会に育つと同時に、強いていえば、石橋を叩いてかつ渡らない式の発展性に欠けることが反省されるべきではないかと考えます。

最近では学会活動の積極化方策の1つとして、経営工学会ならびに品質管理学会と協同して、学術会議の中に独立した学問分野を確立していただきたいとの請願を続けております。国会で審議されている学術会議の新しい法律が制定されれば、さらに前進する予定ですし、ゆくゆくは3学会が合同で発表会を開催することなども検討中です。

また、アジア地域のIFORSのメンバーを集結して、地域的なつながりをもち、せめてお互いの情報の交換でも、もっと緊密に行ないたいと考え日本が率先して、まずは発表会の門戸を自由に開放することから始めてみてはどうかとの呼びかけを開始したところです。

前のIFORSの大会が、OR学会の前進に役立ったことを考えると、アジアの大会開催などを企画するのも望ましいことではありますが、時節柄資金募集にも幾多の困難が予想され、まずは地道に、できることから始めたいと思っている次第です。

学会の内外に対し活動を活発化するためには何といっても、事務局を強化する必要があります。今までのように、学会会員の、しかも特定の方々の勤労奉仕にまわっているだけでは、到底応じきれぬことが明白なので、当面の処置として、学会になじみ

の深い小田部齊氏をわずらわして、昨年6月から学会の顧問になっていただきました。なおそのう
えに、去年の11月から、IBM社のご好意で、5550
機を拝借することができ、もっか、名簿・会費・
出納などの管理プログラムの製作と、データの整
理を行ないつつあります。世にいう企業のOAの
ような大規模のものではありませんが、ORの総
本山であるOR学会が、「紺屋の白袴」のそしりを受
けないように配慮して、学会内に担当委員会を
発足させ、鋭意努力中であり、完全なプログラ
ムが走るようになれば、それらのデータから、そ
れこそ「これからのOR」や学会の在り方を予測
することもできようものと、大いに期待してい
るところです。

結局、「これからのOR」の課題は、学会にたて
こもって世の中を批判することではなく、実際
の問題の解決にどこまで手を借すことができるか
ということにあると思われまふ。たとえば、東南
アジアの国々と一緒にORを進めようとするば、日
本のような国の政治なり経済なりが、一応安定し

ていてそれなりに動いてゆくかたわらで、ORを
論ずるといふ立場はむしろ例外であつて、国の政
治的・経済的社會問題を直接ORの課題としてと
りあげねばならないといふ立場をよく理解しない
と、互いにつき合うことがむずかしいのではない
かとさえ思ふるのであります。しかも日本自身が
いつまでも安穩に暮らせるといふ保証はどこにも
なく、地球的な問題——公害・食糧・気象等々が
次々におこつてきている今日、学会としても、こ
ういつた方面に積極的な活動を開始せざるを得
ないものと思われまふ。事態は徐々に変化してい
る。「最近はお医者さんの入会がふえています」
(事務局)「前のOR事典のときの事例の分類では
今回の事例集の事例を納めることはできなかつ
た」(事例編集委員会)「実測によると大氣中の炭
酸ガスは、季節変動を除くと確実に増加し続け
ている——地球はだんだん暖かくなる」(公害研
究所長のお話し)

こういった兆候を、皆さんはどう考えられます
か。

日本OR学会役員

会 長 横山 勝義
副 会 長 佐久間 孝・三根 久・森村 英典
庶 務 理 事 今野 衛司・若山 邦紘・渡辺 忠
会 計 理 事 伏見多美雄
国 際 理 事 横井 満
編 集 理 事 刀根 薫・牧野 都治
研 究 普 及 理 事 今野 浩・平本 巖
無 任 所 理 事 飯田 徳雄・権藤 元・関口 恭毅
監 事 阿部 統・八巻 直躬

日本OR学会支部長

北 海 道 支 部 沼田 久
東 北 支 部 遠藤 市弥
中 部 支 部 本多 波雄
関 西 支 部 長谷川利治
中 国 四 国 支 部 青木 兼一
九 州 支 部 児玉 正憲